



防災テスト 解答と解説等

【解答と解説】

- ① 地震が発生したときは、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に避難する。
○ 問題のとおり。地震が発生したときは、まず自分の命を守ることが大切です。
- ② 日本の周辺には、プレートが集まっており活発な地震発生地帯となっている。
○ 問題のとおり。日本の周辺には、「ユーラシアプレート」「北アメリカプレート」「太平洋プレート」「フィリピン海プレート」という4枚のプレートが複雑に入り組んでいて、少しずつ動いています。
- ③ 「津波てんでんこ」とは、三陸地方に伝わる言葉である。どういう意味か書きなさい。
「津波の時は、てんでんばらばらに逃げろ」という意味です。
- ④ 「津波避難3原則」とはどのようなものか。3つすべてを書きなさい。
「想定にとられるな」「最善を尽くせ」「率先避難者になれ」の3つです。
群馬大学大学院 教授の片田敏孝氏が提唱しています。この3原則をしっかりと覚えて、いざという時すばやく行動できるようにしましょう。
この3原則は津波の時だけでなく、いろんな災害の時にも役立ちます。
- ⑤ 津波は川をさかのぼることはないので、川の近くは安全である。
× 津波の威力は非常に大きく、川もさかのぼってきます。東日本大震災でも津波は川の堤防を乗り越え、河川沿いの地域に大きな被害をもたらしました。
- ⑥ 津波は引き潮から始まる。
× 地震が発生させた地下の断層の傾きや方向によって、また、津波が発生した場所と海岸との位置関係によって、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合があります。
- ⑦ 津波は陸地に近づくにつれて高さは高くなる。
○ 問題のとおり。津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ後から来る波が前の津波に追いつき、波が高くなります。
- ⑧ 津波は繰り返さないなので、1回来たら避難を解除してもどってもよい。
× 津波は繰り返しやってきます。津波警報等が解除されるまで油断をしないようにしましょう。

⑨ 嘉永7年（安政元年）11月5日（1854年12月24日）の安政南海地震で、稲の束に火を付けて村人たちの命を救った「稲むらの火」のモデルとなった人物は誰か。

「浜口梧陵」です。文政3年（1820年）、広村（現在の和歌山県広川町）生まれです。

⑩ ⑨の人物が、津波の被害にあった村からの人口流出を防ぐため、また、津波から村を守るために私財を投じて村に作ったものは何か。

「堤防」です。長さ600m、高さ5mの堤防を作り、後の津波による被害を最小限に抑えました。

⑪ 「津波防災の日」である11月5日が国連総会本会議において採択され、「〇〇〇〇の日」という国際デーとなりました。何の日となったか書きなさい。

「世界津波の日」となりました。津波の被害を減らすため、各国が早期警報システムなどを整備する重要性を強調し、津波への備えを啓発する国際デーとしています。

⑫ 土砂災害の種類は、おもに3つある。3つすべてを書きなさい。

「土石流」「地すべり」「がけくずれ」の3つです。

土石流…山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象
地すべり…斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象

がけくずれ…斜面上の土砂や岩石が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象

⑬ 土砂災害は突然起こるので、前ふれはない。

× それぞれ前ふれがあります。

土石流…山鳴り、雨が降り続いたのに水位が下がっている、川の水が濁り、流木が混ざるなど
地すべり…地面のひび割れ、沢や井戸水の濁り、斜面からの水の噴出など

がけくずれ…がけからの水が濁っていたり、亀裂が生じたり、小石がパラパラ落ちてくるなど

⑭ 大雨が降り続いたり大きな地震があったりしたときには、土砂災害の発生を考える必要がある。

○ 問題のとおり。大雨のときや大地震のときは地盤がゆるみ、土砂災害が発生しやすくなります。

⑮ 学校や家庭、地域の避難訓練に積極的に参加することが大切である。

○ 問題のとおり。積極的に訓練に参加し防災意識を高めましょう。また、自分以外の人たちと協力して防災に強いまちをめざしましょう。

⑯ 台風は巨大な空気の渦巻きになっており、反時計回りに強い風が吹き込んでいる。そのため、台風の左半分の方が風が強くなっている。

× 右半分の方が強くなっています。進行方向に向かって右の半円では、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため風が強くなります。逆に左の半円では台風自身の風が逆になるので、右の半円に比べると風速がいくぶん小さくなります。

- ⑰ 家具を固定したり、家具の配置を工夫したりしてもまったく意味がない。
 × 建物が地震に強くても、揺れにより中の家具が転倒します。固定や配置を工夫し、転倒による被害をなくしましょう。
- ⑱ 災害の時は食料や水など必要なものはもらうことができるので、災害に備えて家庭で準備しておく必要はない。
 × 災害時、食料など必要な物資が届くまでに数日かかることがあります。最低3日分できれば1週間程度過ごせる食料などを家庭で準備しておきましょう。
- ⑲ 避難所とは、災害により家に住めなくなったときに一時的に避難生活をするところであり、緊急避難先とは、災害時に危険を避けるために一時的に避難をするところである。
 ○ 問題のとおり。自分の家の近くの避難所や緊急避難先を確認しておきましょう。
- ⑳ 家族で、避難する場所などを確認しあったり、災害時の対応について話しあったりすることは大切である。
 ○ 問題のとおり。家族の防災意識を高めるために、防災について話し合うことは大切です。ぜひ実行してください。

【問題構成】

問題番号	教育項目
①	地震から身を守る方法
②	地震・津波のおき方
③④	避難方法
⑤⑥⑦⑧	津波の様々な特徴
⑨⑩⑪	「世界津波の日」「津波防災の日」
⑫⑬⑭	土砂災害の特徴
⑮	自助・共助の精神
⑯	台風の特徴
⑰⑱	日頃の備え
⑲	防災に関する知識
⑳	防災意識の向上